

＊ 堺教会CS新聞 「いずみのひろば」はぜひ、家族の人と一緒に読んで下さい。

いずみのひろば

2021年6月号
日本基督教園 堺教会
No.509 教会学校



『重い皮膚病を患っている人をいやす』

マルコによる福音書 1:40-45



これは後にハンセン病と言われる病のことです。昔はライ病とも言われ
てました。

おそらく昔のことですと、発見するのが遅れてしまつて、わかつたときには既
に手遅れで、手足が変形するとか目が見えなくなるとかそういった病状を取
り上げられて恐れられていたんだと思います。

さて、この重い皮膚病になつた人の気持ちはどんなだつたでしょうか？
また、重い皮膚病になつた人を隔離するようにした人たちの気持ちはどんな



だつたでしょうか？
現代社会において、私たちに置き換えて言うと、ちょうど仲間外れになつ
た人と仲間外れにする人と言う関係に置き換えられて考えることができるか
と思います。

ある人を仲間外れにすることは、もちろんあつてはならないことです。けれど
も、病氣の人を隔離するときなど、私たちの身を守るといふ意味では正しいこと
になることもあります。けれども、理由はどうあれ、仲間はずれにされた人の気持
ちはどうでしょう？ また、わたしたちにも、理由はどうあれ、仲間はずれのような
にされてしまうことがあるかもしれません。そんな時はきつとだれでも、暗い気持
ちに心が支配されてしまうのではないのでしょうか。
神様は私たちが一人ひとりのことをいつでも見守つてくださっています。
いいことをしている時も悪いことをしている時も、私たちが一人ひとりのことを
いつでもずっと見てください。



私たちがずっと、「清くなれ」と思つてくださり、本当に「清く」し
てくださります。

これから、ずっと教会を離れず、神様に喜ばれる清らかな神の子とし
て礼拝を守ってください。

(おはなし 霜野直紀 先生)

